

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 23

特集 三春わが街 私のひとこと

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会

題字 「わが街」大槻 明夫さん

現在三春町では、青空のもと何ヶ所かでさまざまな「市」が開かれるようになってきています。その中でも商店の人や農家の主婦たちの連携で開いている「磐州市」を訪ねてみました。

磐州市のおこり

「磐州市」は三春の町の活性化をねらい、「市」を開いている人も「市」に来た人も元気がでるようにと始められました。

以前は、「青空市」という名前が、農家の人たちが自分たちの作った野菜や花などを売っていました。それを土台にして農家の人と商店の人と協力して、もっと大きく三春町のメインになるような「市」ということで、一緒に開くことにしました。



名前の由来

平成9年8月12日、はじめての市が開催されました。「花夕市」という名前で、場所は北町から荒町に抜けてゆくできたばかりの「磐州通り」でした。

そこから「磐州市」に改名され、会の名前も「磐州市の会」になりました。

磐州市の会

やる気のある人ならどんなでもと呼びかけ会員を集めたところ、47名が集ま

りました。各役員を決め会員の意見を聞きながら会運営されています。

会では、「市」を開く日程が決まると、会員全員に参加の希望を募ります。

そこで出店することを決めると、会に出店料を払い参加します。あくまでも自由参加ということで、会員の自主性にまかされています。

磐州市の誇り

「お金をいただくのだから、商品としてちゃんとしたもの、良くて安いもの、そこで勝負しなくては」というのが会の人たちのモットーです。そのため、出店するときには自信をもってお客様に売ることができるようになっています。

「市」の 異色メンバー

「磐州市」で異色なのが住宅研究会です。最初はお手伝いということに参加していましたが、ところが、回をおごとに「はまっしまい」、今では、まな

花市でにぎわう磐州市

楽しい磐州市

板などを商品に参加しています。手づくりブームも手伝って日曜大工に使う材料を売ったり、作り方のアドバイスもするという熱のいれようです。

磐州花夕市の会場を訪れてみました。



野菜を売る人、花を売る人、お菓子を売る人、つきたてのおもちを売る人など、いろいろな店が並んでいます。そこにはたくさんのお客様がいて、押すな押すなのにぎわいでした。

野菜をたくさん買いこんでいる主婦がいましたので、「磐州市」のことを聞いてみました。「新鮮で安いから来たんだぞい」と答えてくれました。また、買った花をかかえている男の人に聞いてみると「ここに來ると会える人がいんだわい。だから楽しみに来てんだぞい」と話していました。

「まけとくれ」と言っているお客様に「いいぞえ」と答えるかばちやを売っている人がいました。

また、梅干しや漬け物を売っているところで、試食品を食べながら「この漬け方はどうすんだい」と聞いているお客様がいました。

そこで、漬けた人が漬け方の話を始めると、人が次から次へと集まってきて、即席の講習会になっている店もありました。

「市」の努力

磐州市の会では、一人でも多くの人に来てもらいたいという願いをこめて、毎回目玉商品を取り入れた企画をしています。

目玉商品の卵を買い求める人で、「市」が始まる前から、行列ができるほどの大変なにぎわいでした。

会員の中には、同じ物を販売して、お客様にあきられてしまわないように、季節を考えた品揃えをしたり、隣の店と同じ品が並ばない

ようにと、陳列にも工夫を凝らしていました。

また、子供にも楽しんでもらいたいということで、金魚すくいのコーナーがありました。

子供のはしゃいだ声もあがり、周りにいる大人も一緒に楽しんでいました。



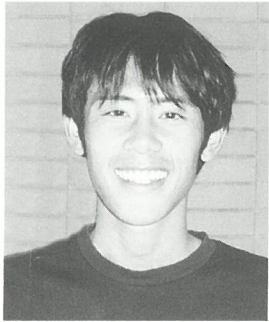
磐州市のこれから

最後に、磐州市の会の大槻明夫会長に、これからの抱負を聞いてみました。

「三春町の多くの人に「次の磐州市はいつやんだい」と楽しみに待っていてもらえようになりたいと思います。また、他の町の人には、「磐州市があるから三春町へ行ってみたい」と言ってもらえるように努力してゆきたいと思っています。また、これから磐州市の会の会員の募集をします。たくさんの方が会に参加するのが嬉しいです。そして、会員が結束して磐州市をますます盛りあげてゆきたいと思っています。笑顔を答えて下さいました。」



はりきる大槻会長
笑顔で答えて下さいました。



和知 俊浩さん



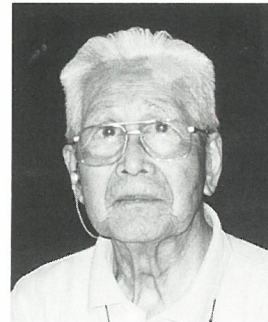
岡本 京子さん



横山 紀幸さん



村上 早苗さん



五十川 精さん



高橋 邦子さん

大雨が降った時に、川の水が増えて、道路にも水がたくさんたまっているのを見ました。川の近くの家は、家の中まで水が入り、大変そうでした。これからは、このようにならない川にしていきたいです。

「町にカラオケ、ファミレス、ファーストフードの店を!!」是非はともかく、子供の意見を尊重した町づくりを提案します。子供たちがどのような意見を持っているのかを聞くのも一案かと思っています。

街路整備が着々と進んでいる中で我々商店街では、中小企業の活性化なくして町づくりは考えられない。小さくてもいい、ぬくもりのある店づくりの原点に立ち、住みやすい魅力のある町にしたい。

三春町について日頃感じていることは、お店が少ないということ。三春町で買い物をすると、欲しい商品が見つかりません。すぐく不便だと思えます。三春町には、お店が少ない!

町の美観には敬意を表します。街路樹や花壇の設置で通行人に潤いを与えておりますが、近頃雑草の繁茂で見苦しく、折角の街路樹や花壇が泣いていますので、美化管理に努めてほしいものです。

不平ばかりを言い動かないのではなく自らが行動し個々が楽しめる町。それを援助し模範になる行政。恒例行事なども賞などを設けて子供も大人も進んで参加する賑やかで楽しい町になってほしい。

私のひとこと 集

…… 30人にききました!

-マで、町民30人の皆さんに登場していただきました。職業にこだわらない多彩な顔ぶれとなり、それぞれが、限られた原稿に綴っていただきました。

も、行かなかった人も、発言できなかった人も、このさながら「紙上まちづくり懇談会」となりました。いることを理解すると同時に、足りないところ、欠けうか。まして、人の考えに耳を傾けるゆとりも忘れて

が、それぞれが感じた三春町への思いを読みとって



前田河澄子さん

活性化って何でしょう。疑問がいつぱい。町の中心街がともきれいになっています。でも人がいなくなっているのでは…。この町に住んでいる人が住み良いと思う町であってほしい。



佐藤 雅一さん

最近、一部ですが車優先の歩道が人優先の歩道に改修されていますね。障害を持った人々が安心して暮らせる町づくりが高齢化社会への基礎作りです。誰もが住みよい町を。



嶋原 仁子さん

21世紀を目前に三春町は、住み良い町づくり、環境づくりの行政に力強く感じます。赤子から老人まで健康であるために屋内プールを実現してください。健康な家族、明るい家庭こそ町の活力の源です。



横山 恵子さん

三春町と言えば「城下町」。お城がないのが残念。歴史をたどる意味でも、ぜひ復元してほしい。その城の中に、愛姫に関する資料など展示し、愛姫の町としての名をあげ、人の集まる町になればと思います。



枝並 忠幸さん

三春の子供たちは優しい心をもっています。その反面、シャイで自分の意志を伝えることが苦手です。優しさと強さを兼ね備え、グローバルに活躍できる人間になってほしいと思います。



橋本紗緒利さん

三春に住む全ての人々が常に笑顔で暮らせるように、何かあればすぐに気軽に専門家に相談できたり様々な福祉サービスを利用できるような地域内のネットワークが今以上に広がってほしいと思う。



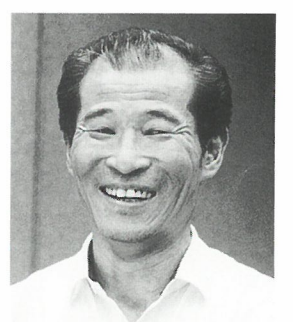
橋本 市朗さん

新鮮な野菜を目の前で調達できる三春の里に、子ども会、家族連れで使える『ミニオートキャンプ場』を設置してはどうか。炊事のできる場所があれば、イモ煮会等でも利用できると思います。



佐藤 幸子さん

人情味のある温もりの町。自然を大切に子孫が住んで良かったと実感出来る地域づくりに常にチャレンジ精神を持って対処し、商店街の活性化等に協力参加して真の男女平等実現出来る三春町にしたい。



大内 章正さん

今一番必要なのは、良い立地環境で地元の子供達を田村高校へ進学させること、そして三春中学校の移転ではないだろうか。勉強、スポーツを通じた人材育成こそ我が三春に必要なのではないかと提案したい。



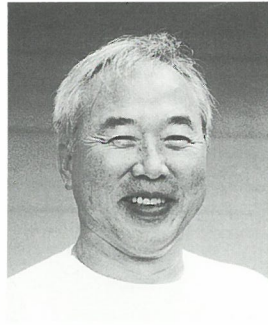
橋本 弘さん

三春にいつばいある自然を生かした公園が、歩いていけるところに欲しい。親と子、お年寄りと子、子ども同志が群がる公園。公園は人と関わる体験や生活体験を与えてくれる。
「子どもにやさしい街三春」



服部 由佳さん

最近の三春町はゴミのポイ捨てが目立ちます。本来捨てる場所でない所に平気で捨てる人をよく見かけます。きれいな三春町にするために住んでいる私達が考えなくてはいけない問題だと思います。



小山 淳さん

好きな磐州市が、突然歩道から消えた。安売りの「まちおこし」の行事から、警察が一軒毎に場所代を取る様になったからだそうだ。道路を作るにも修理にも金を出さない警察が、何故使用料だけ取るのだ!!



橋本 幸子さん

三春町に望むことは、年配の方が多いため、郊外の大店街に集中しない便利な商店街のある町でいてほしいと思います。歴史のある所なので、寺院や神社を大切にしてゆけば良いと思います。



谷脇 達男さん

「外からの便り」お早うございます。この言葉のイントネーションの美しさが心に深くしみ入る三春町です。『永い歴史と文化の町』胸に温かさが伝わってくる人情の町を21世紀の若者達に申し送ってゆきたいものです。



佐藤 文子さん

高齢者や障害者に優しい街にすることは私達にとっても住みやすい町になる。段差をなくし歩道を広くとったり、街角にポケットパークをつくり木陰のベンチでくつろげるような町にしたい。



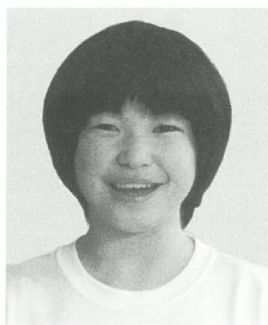
滝本 椎子さん

三春町も見違える程綺麗になり散歩も楽しくなりました。でも我家の御免町横通りが、余りにも小波が多く老人の足元が心配になります。一日も早く老人が安心して歩けるような平らな道になる日が待ち遠しいです。



佐久間 伝さん

私が大町の町民のひとりとして常に考えていることは、道路改良の為人口の減少が残念なことです。三十才未満の妻帯者が、破格の安価で入居できるような、高層アパートの建設を望みます。



鳴原 未来さん

私が考えている理想の三春町は、このままの自然を永遠に残していくことです。そして、その自然環境を利用した町づくりをしていくと、もつと良い三春町になっていくのではないかと思います。

特三春わがまち、 「こんな三春町にしたい」

今回の企画は、「こんな三春町にしたい」というテーマ。中学1年生から80歳代のお年寄りまで、年齢・性別・わが街三春への思いを込めて、優しく、時には厳しく年に1度の「まちづくり懇談会」へ行けなかった人紙上なら自由に発言することができます。そのため、町民ひとりひとりが、三春町の良いところ、優れているところも知ることは必要なことではないでしょうか。と思います。

この特集は、わずか30名の町民の意見ではりますがただければと企画いたしました。



植田ちか子さん

高乾院。舞鶴城主ゆかりの寺。歴史の再建に向けて、小さな努力を重ねています。歴史の町を後世に伝える事ができるよう、あなたがいたまざしと協力を是非お願いいたします。



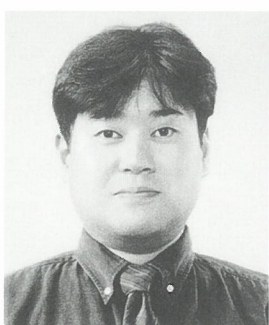
大谷 信二さん

小さな城下町。誇りに思える美しいまちづくりにいつでも誰でも参加できるような町。そして高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる町。地域の子供たちの教育環境を考えたい。



橋本実智代さん

三春町では、今までですと文化交流の場として、多くは公民館などを利用してありますが、これからは幅広い交流の場として、施設の整った文化センターの必要性を感じます。期待しています。



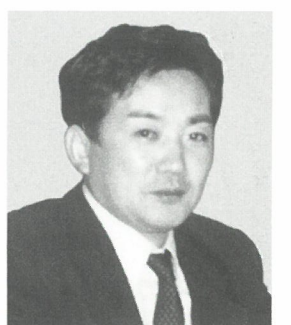
宇野沢健夫さん

この数年は三春町でも大雨による水害が多くなってきました。お年寄りの方だけの家庭も多く大変心配です。一日も早く、災害の無い、安全に暮らせる町にしたいと思います。



桑山トミ子さん

三春町にも温水プールの実現を。水泳は足腰の弱ってくる高齢者から幼児までそれぞれ体力に応じた運動ができます。また運動神経の善し悪しも関係なく、水に慣れることで運動不足の解消とさわやかな日々を送るために絶対必要であると考えます。



三瓶 一壽さん

人間、生まれた時はヨチヨチ歩く。自転車、原付、オートバイ。自動車、特急、新幹線。世の中に速いものは多々あれど、やっぱり自分の歩みが一番。人それぞれに自分の歩みを持てる・まち。

ふるさと再発見

百杯宴の碑

百杯宴の碑は、三春郷土人形館の正面、桜川沿いの時計台近くにありま

す。この碑は、川前紫

漢とい

う人物が催した宴会にちな

んで建てられたもので、正

面の碑文を、紫漢の友人で、

江戸幕府の学校昌平校教授

の安積良斎(現郡山市出身)

が書き、篆額(漢字の書体

の一つで、碑文の上部に書

かれた題字)を、三春出身

で幕末から明治にかけて活

躍した絵師中村寛亭が行っ

ています。

川前紫漢は、文化十四年

(一八一七)三春城下の生

まれで、来光院(現武道館

の辺りにあったお寺)の修

験から儒学者になった人物

です。来光院に私塾を開き、

多くの子弟を教育したこと

は有名ですが、なかでも河

野広中の師として、「広中」

の名を授けた人物として特

に有名です。広中の学問的

素養の基礎は紫漢より教授されたと言われ、広中以外にも、多くの自由民権運動家がその門をたたいていま

す。名を亀角、字を千載と

いい、紫漢は号です。良斎の碑文には、酒と竹を愛し、友人たちから多くの書画を送られ、同時に盆を送られることが多かったことが記されています。

安政四年(一八五七)四月五日、送られた盆が百杯に達したことを記念し、満開の桜の下、河野広中の兄広胖や琴田岩松(自由民権運動家)の父長発らをはじめ、総勢四〇名以上の人々と盃を空け、これを称して「百杯宴」としたのです。

幕末の動乱を間近にひかえ、つかのまの平和に酔いしれた人々の姿は、訪れる人もほとんどいない石碑とともに、今も静かにたたずんでいるのです。



龍隠・愛宕散策路

一三四段の石段を息を切らし、うっすら汗をかきながら登ると、愛宕神社に着きます。

たくさんの木々の間に、大変きれいになった散策路が目に入ります。今まで何度か歩きましたが、枯れ枝やごみが落ちており、歩きにくくなっておりまし



地域の方々が日頃こまめに手入れをしたそうです。深まり行く秋、きれいになった散策路を時にはのんびりと、歩いてみてはいかがでしょうか。

木々の間からこぼれる光もまた素敵でいいですよ。

部会だより

生活部会

部会長 佐藤 保夫

生活部会としては、ニコニコ道路の看板の清掃を九月二十五日に実施しました。部会の皆さんと旧町に二十箇所ある看板の清掃をしながら、普段歩かない所を歩き、楽しんでおります。亀井を通ってお城山を下る時、遠くの景色を眺め、澄んだ空気を腹一杯吸うと気持ち晴々として、疲れも一度に忘れるような気分になります。

なお、掲示板については、荒町と中町に設置致しました。

皆さんには大いに利用して頂きたいと思います。

環境部会

部会長 平河内健治

環境部会の今年度の主事業計画としては、新設ごみ集積所への助成金交付です。今年度三年目に入り集積所への関心も高まり、カラス、猫等の苦情がなくなり、街の中の環境美化が進んでおります。今年度も三基設置に対し七件の申し込みが入っております。

また、十月八日には二本松の硝子会社二社の視察研修を実施しました。

分別収集されたガラス瓶のカレット(砕く)から製瓶までの作業工程について、大変有意義な研修会でした。

街並部会

部会長 根本 忠

昨年度は、三春まちめぐりマップを十一月一日に発行し、旧町六町と八島台に配布。その他、各事業所、商店の方々にご協力を頂いております。

同時に、石柱設置を継続事業としております。何度か会議を開催し、町名、字名についての勉強会を実施致しました。

歴史民俗資料館学芸員の藤井康氏を講師に、二月と六月には部会での勉強会。七月三十日には他の部会にも呼びかけ、多数参加していただき好評でした。

今年度は、石柱二基設置を予定しております。

老人福祉部会

部会長 五十嵐和男

三春まちづくり協会老人福祉部会は、地域老人福祉のため、次の活動を計画・実施いたします。

(一)「ふれあいの集い」への助成

各字毎に開催される「ふれあいの集い」に対し、経費の一部を補助。

(二)敬老会への参加

三春地区敬老会の実行委員会会の構成委員として、これに参画。

(三)視察研修・勉強会

三春町の老人福祉施策等の現状を良く認識するとともに、新たに実施される介

土地利用部会

部会長 田母野公彦

今年度は岩波新書の『町づくりの実践』などを参考に、発想と視点を変えた活動しようという取り組みを開始いたしました。

先ず、町所有の土地が、どのように有効に利用されているか、旧町内の公園・遊園地等を視察し、状況を把握して、この結果を役場の担当課に報告できればと考えています。

次に、町民センターと「緑の基本計画」について勉強会をする予定です。

さらに、協会の研修の中で土地利用の内容も取り入れた視察研修に参加したいと思っております。

広報委員会

私たちが「三春わが街」を編集している広報委員です。

委員長 中村 利孝

副委員長 永井 久

委員 永山 栄子

委員 角 悟朗

委員 佐藤 弘

委員 佐藤 忠男

委員 降矢由美子

委員 山内 節子

委員 松本美恵子

◎清水の目下部正和さんにお願ひし、タイトルデザインが七年ぶりに新しくなりました。

町の話題、お待ちしています!!

編集後記

◆お気付きになられたでしょうか。題字が変わりました。今回一面に出ていただいた方にお願ひしました。さらにタイトルデザインも新しくなりました。「三春」歴史のある町。そして、現代の日本がかかえる問題もまた、かかえています。そんな町に『元気を!!』と30名の皆さんに御意見をいただきました。『もつとあるぞい』と考えられる方、是非御一報下さい。最後に、登壇いただきました方々に御礼を申し上げます。(松本)

◆有名な宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」に、「ヒドリノトキハナミダヲナガシ」(原文)という箇所があり、「ヒドリ」とは「ヒデリ」の誤記と思われるが、他に「日取り」(日雇い)の意味、「一人」の誤記とする説があります。

たった仮名ひとつで、このような問題が起こるのだから、文章を書く時には一字一句もおろそかにできないと自戒しております。

「百杯宴の碑」について、郡山の伊藤和さんよりご助言や資料のご提供を頂き、感謝申し上げます。(角)

コミュニティだより
「三春わが街」第二十三号
発行日 平成十一年十一月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広 報 委 員 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八